

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
11004	X-01-A-1-110045			【1年次生】国際学部国際文化学科 【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース 【2年次生以上】国際学部国際文化学科 【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1年次生】経営情報学部経営学科 【1年次生】経営情報学部情報システム学科 【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース 【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	基礎 基礎 × × 基礎 基礎 × ×	選択 選択 × × 選択 選択 × ×	1年 1年 × × 1年 1年 × ×
授業科目	担当教員						
国際交流ファシリテーター 演習2	佐々木 寛 山田 裕 史	1	前期				

授業目的

21世紀に要求されるのは、他者と共に、臨機応変に創造的な活動を展開することができる、総合的な人間力です。単に前例を倣い、知識や指示を一方的に受容・伝達するだけの生き方や学習方法は、あらゆる分野で行き詰まりをみせています。この授業では、「ワークショップ」と「ファシリテーション」等の新しい手法を用い、参加者が実際に身体を動かしながら、自ら主体的に学ぶことを第一義とします。

この授業を経験することで、さまざまな「他者」のなかで、さまざまな議題やテーマを柔軟に「コーディネート」する能力や、民主的なリーダーシップを發揮する真の知的・社会的能力を養うことができます。この授業では、たとえば「世界の現実」「世界の不平等」「異文化理解」などの3つの大きなテーマに即して、国際理解を深めます。

この授業の合格者は、新潟県国際交流協会から「国際交流ファシリテーター」の委嘱状を授与され、同年度の9月と2月に県内の小中学校・高等学校で国際理解を目的としたワークショップを実践することになります。

また、ディプロマポリシーとの関連では、本演習は国境を越えた個別具体的な問題への認識を深める国際教養の体得に資するものと位置づけられます。

各回毎の授業内容

第1回

【授】ガイダンス（概要説明、年間計画表・自己紹介シート配布、課題レポート説明）
【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示する国際理解教育やワークショップに関する書籍を精読すること。

第2回

【授】自己紹介アイスブレイク+講義（「ワークショップの意味」）
【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示する国際理解教育やワークショップに関する書籍を精読すること。

第3回

【授】学外講師による講義（「世界の現実」）
【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示する国際理解教育やワークショップに関する書籍を精読すること。

第4回

【授】学外講師による講義（「世界の不平等」）
【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示する国際理解教育やワークショップに関する書籍を精読すること。

第5回

【授】学外講師による講義（「異文化理解」）
【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示する国際理解教育やワークショップに関する書籍を精読すること。

第6回

【授】学外講師によるワークショップ（「身体とアクティビティ」）
【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示する国際理解教育やワークショップに関する書籍を精読すること。

第7回

【授】レポートテーマによるグループ分け：ワークショップ作成法の説明
【前・後】【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること。

第8回

【授】アイスブレーキング事例集紹介：経験者模擬ワークショップ
【前・後】【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること。

第9回

【授】学生による模擬ワークショップ準備
【前・後】【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること。

第10回

【授】学生による模擬ワークショップ披露・評価1
【前・後】【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること、または、グループごとに模擬ワークショップのふりかえりを行うこと。

第11回

【授】学生による模擬ワークショップ披露・評価2
【前・後】【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること、または、グループごとに模擬ワークショップのふりかえりを行うこと。

第12回

【授】学生による模擬ワークショップ披露・評価3
【前・後】【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること、または、グループごとに模擬ワークショップのふりかえりを行うこと。

第13回

【授】学生による模擬ワークショップ披露・評価4
【前・後】【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること、または、グループごとに模擬ワークショップのふりかえりを行うこと。

第14回

【授】学生による模擬ワークショップ披露・評価5
【前・後】【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップの準備を進めること、または、グループごとに模擬ワークショップのふりかえりを行うこと。

第15回

【授】まとめ、問題点の確認
【前・後】【必要な時間：4時間】グループごとに模擬ワークショップのふりかえりを行うこと。

第16回

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
成果発表（口頭・実技）							
演習							
その他							

出席回数と授業参加態度、および参加者が発表する模擬ワークショップをもとに評価します。

模擬ワークショップに対するフィードバックとして、評価シートにもとづく講評を行います。

教科書参考書

青木将幸『リラックスと集中を一瞬でつくるアイスブレイクベスト50』ほんの森出版、2013年

石川一喜・小貫仁編『教育ファシリテーターになろう！：グローバルな学びをめざす参加型授業』弘文堂、2016年

ちょんせいこ『人やまちが元気になるファシリテーター入門講座』解放出版社、2007年

中野民夫『ワークショップ：新しい学びと創造の場』岩波新書、2001年

堀公俊『ファシリテーション入門〈第2版〉』日本経済新聞出版社、2018年

ロバート・チェンバース『参加型ワークショップ入門』明石書店、2004年

その他の書籍は授業中に紹介します。

受講に当たっての留意事項

国際交流ファシリテーターを目指す学生は必ず履修してください（必修科目）。本科目は、単に授業に出席するだけでなく、その準備のために多くのエネルギーと時間を要します。地域社会に成果を示すため、本学を代表する覚悟と自覚が必要です。

学習到達目標

基本的に、自分ひとりでも国際理解に関するワークショップを運営展開できる能力を身につけること。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習